

感染症情報 5月22日～28日

府下小児科200療機関(堺市19)から

①感染性胃腸炎	1628例(堺市	76例)
②溶連菌感染症	722例(堺市	56例)
③手足口病	454例(堺市	26例)
④咽頭結膜熱	223例(堺市	9例)
⑤突発性発疹	122例(堺市	3例)

府下インフルエンザ定点307医療機関(堺市29)から

インフルエンザ 90例(堺市 8例)

が報告された。

感染症報告数は前週から8.5%増の3,480件であった。報告の第1位は感染性胃腸炎で以下、溶連菌感染症、手足口病、咽頭結膜熱、突発性発疹の順であった。

1位の感染性胃腸炎は府下で前週比4%増、堺市では前週比4%減であった。2位の溶連菌感染症は府下で前週比15%増、堺市で12%増であった。手足口病が府下で前週比10%増、堺市では前週18例→今回26例で44%増であった。咽頭結膜熱が府下では前週比40%増、堺市で前週8例→今回9例であった。

インフルエンザは府下では前週比34%減の90例が報告され、堺市では前週9例→今回8例になった。

5月26日の報道によると、「5月14日までの1週間に報告された咽頭結膜熱(いわゆるプール熱)の全国患者数がこの時期としては過去10年で最も多くなっており、国立感染症研究所は、例年より早く患者が増えていると注意を呼びかけている」とある。飛沫感染のほか、接触感染もするので感染防止は難しいが、手洗いやうがいなどに努めていただきたい。

麻疹や風疹の報告はなかった。